



管内経済情勢報告

～中国地方の経済情勢について～

平成 30 年 10 月
財務省 中国財務局

(平成 30 年 11 月 1 日公表)

【お問い合わせ先】

中国財務局経済調査課(藤吉、藤田)


電話 (082) 221-9221(代表)
(082) 223-3038(直通)

Fax (082) 221-3845

<http://chugoku.mof.go.jp/>

1. 総論

【総括判断】「管内経済は、平成30年7月豪雨の影響により回復のテンポが緩やかになっている」

項目	前回（平成30年7月判断）	今回（平成30年10月判断）	前回比較
総括判断	平成30年7月豪雨前は、緩やかに回復していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	平成30年7月豪雨の影響により回復のテンポが緩やかになっている	

（注）基調比較は、前回7月経済情勢報告における平成30年7月豪雨（以下、「豪雨」という。）前の状況での判断と、豪雨後から足下（10月末）の状況までを含めた期間での判断との比較を行っている。




（判断の要点）






個人消費は、ドラッグストア販売やコンビニエンスストア販売が猛暑等により前年を上回るなど回復しつつある。生産活動は、輸送機械やはん用・生産用・業務用機械などで豪雨の影響が薄まりつつあるものの、豪雨前の水準まで戻っていないなど、回復のテンポが緩やかになっている。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。

【各項目の判断】

（注）平成30年10月の各項目の判断は、前回7月判断（豪雨前）以降、豪雨後から足下（10月末）の状況までを含めた期間で判断している。

項目	前回（平成30年7月判断・豪雨前）	今回（平成30年10月判断）	前回比較
----	-------------------	----------------	------

個人消費	回復しつつある	回復しつつある	
生産活動	緩やかに回復している	豪雨の影響が薄まりつつあるものの、豪雨前の水準まで戻っていないなど、回復のテンポが緩やかになっている	
雇用情勢	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている	

設備投資	平成30年度は前年度を上回る見通し	平成30年度は前年度を上回る見通し	
企業収益	平成30年度は減益見通し	平成30年度は減益見通し	
企業の景況感	「下降」超幅は縮小	「下降」超幅は拡大	
住宅建設	前年を下回る	前年を上回る	
輸出	前年を上回る	前年を下回る	

【先行き】

先行きについては、社会インフラの復旧等に伴い、豪雨の影響から回復していくことが期待される。ただし、人手不足による企業活動への影響や通商問題の動向を含む海外経済等の不確実性などに注視していく必要がある。

2. 各論

(注) 平成30年10月の各項目の判断は、前回7月判断(豪雨前)以降、豪雨後から足下(10月末)の状況までを含めた期間で判断している。

■ 個人消費 「回復しつつある」

百貨店販売は、豪雨、猛暑、台風などの影響で来店客数が伸びず、前年を下回っている。ドラッグストア販売、コンビニエンスストア販売は、猛暑や豪雨の影響から飲料水などを中心に売上が伸び、前年を上回っている。また、乗用車販売(新車登録・販売台数)は、豪雨で被災したことに伴う買い替え需要などから、前年を上回っている。このように、個人消費は、全体では回復しつつある。

(主なヒアリング結果)

- 高級腕時計、海外ブランド製品などの高額品は堅調であるが、豪雨、猛暑、台風の影響で来店客数が減少したことなどから、売上は低調となった。(百貨店)
- 記録的な猛暑の影響で、飲料水や経口補水液、塩飴、冷却用品といった熱中症対策商品がよく売れた。ただし、暑すぎたことで、蚊などの虫が少なかったのか、夏場によく売れる殺虫剤や虫刺され商品などの売れ行きは悪かった。(ドラッグストア)
- 豪雨直後は一時的に来店客数が減少したものの、すぐに被災者などが、飲料水、パン、乾電池等を求めて来店した。また、猛暑で、飲料、アイスクリームなどが良く動いたことに加え、火を使った調理を避けるため惣菜の売れ行きが良かった。(コンビニエンスストア)
- 豪雨で被災した乗用車の買い替え需要などがあり販売台数が増加した。(自動車販売)

■ 生産活動 「豪雨の影響が薄まりつつあるものの、豪雨前の水準まで戻っていないなど、回復のテンポが緩やかになっている」

輸送機械、はん用・生産用・業務用機械、鉄鋼は、豪雨の影響により低下した生産水準が戻りつつあるものの、減少している。化学は、国内外において需要が堅調であるものの、定期修理の影響により減少している。このように、生産活動は、豪雨の影響が薄まりつつあるものの、豪雨前の水準まで戻っていないなど、回復のテンポが緩やかになっている。

(主なヒアリング結果)

- 豪雨の影響により操業を一時的に休止したことや、再開後も交通網などへの負荷に配慮した生産体制としていたが、9月上旬より通常の体制に戻し、フル操業が続いている。(自動車)
- 豪雨により工場の一部が水没したため、保管していた精密部品の大半が使用できなくなった。生産計画に従ってラインを稼働したいが、部品の再調達に支障が生じており、生産調整が続いている。(電気機械)
- 豪雨により設備は被災しなかったものの、サプライヤーが被災したため操業を一時的に休止した。土曜日の休みを返上することで減少分の生産台数を挽回する計画としている。(生産用機械)
- 豪雨により自家発電設備の一部に重大な不具合が生じたことなどから、依然として豪雨前の生産水準まで回復していない状況である。(鉄鋼)

■ 雇用情勢 「着実に改善しており、人手不足感が一段と拡がっている」

有効求人倍率(平成30年6~8月)は1.91倍と、全国の1.63倍と比べ高水準で推移しているほか、新規求人数も増加している。また、完全失業率も低水準で推移するなど、雇用情勢は、着実に改善しており、人手不足感が一段と拡がっている。

(参考) 広島県の賃金の動き

現金給与総額(名目賃金)は、平成30年7月で前年同月比0.2%と前年を上回っている。

(主なヒアリング結果)

- 不足している現場作業員について、募集時の給与水準を上げるなど人材の確保に努めたことに加え、従業員の負担軽減や作業効率化を図るための設備投資など、様々な取組みを行った結果、旺盛な需要に対応することができている。(生産用機械)
- パートが不足しており、CMを流すなど知名度を上げる取組みをしたが、採用につながっていない。(生産用機械)
- 新卒対象の合同企業説明会に参加したが、企業の数よりも学生の数の方が少なく、売り手市場であることを実感した。(小売)
- 食品宅配サービスを担当するドライバーが不足しており、募集をするも応募がないため、小型トラックの導入や職場環境の改善などを行うことで、社内でドライバーとしても働ける従業員が増えるよう取り組んでいる。(小売)
- 業務効率の向上や人手不足の解消を図るため、食品加工機械を導入した結果、従業員の業務量が少なくなり、他の業務に時間を掛けられるようになった。(宿泊・飲食サービス)

■ **設備投資 「平成 30 年度は前年度を上回る見通し」**（全産業）「法人企業景気予測調査」平成 30 年 7～9 月期

- 製造業では、鉄鋼などで減少するものの、化学、自動車などで増加することから、全体では前年度を上回る見通しとなっている。
- 非製造業では、宿泊・飲食サービス、その他のサービスなどで減少するものの、小売、不動産などで増加することから、全体では前年度を上回る見通しとなっている。

(主なヒアリング結果)

- 生産体制を強化するための投資を行う。(化学)
- 新規出店や店舗改装などの投資を行う。(小売)

■ **企業収益 「平成 30 年度は減益見通し」**（全産業）「法人企業景気予測調査」平成 30 年 7～9 月期

- 製造業では、情報通信機械、鉄鋼などで増益となるものの、化学、自動車などで減益となることから、全体では減益見通しとなっている。
- 非製造業(除く「電気・ガス・水道業」、「金融業、保険業」)では、運輸・郵便、医療・教育などで増益となるものの、建設、小売などで減益となることから、全体では減益見通しとなっている。

■ **企業の景況感 「『下降』超幅は拡大」**（全産業）「法人企業景気予測調査」平成 30 年 7～9 月期

- 企業の景況判断BSIは、「下降」超幅が拡大している。なお、先行きは「上昇」超に転じる見通しとなっている。

■ **住宅建設 「前年を上回る」**

- 新設住宅着工戸数でみると、持家が減少しているものの、貸家、給与住宅などが増加していることから、前年を上回っている。

■ **輸出 「前年を下回る」**

- 管内通関実績(円ベース)でみると、輸出は、一般機械、船舶などが減少していることから、前年を下回っている。地域別では、北米、中南米などで減少している。
 なお、輸入は、原油及び粗油、石油製品などが増加していることから、前年を上回っている。地域別では、中東、アジアなどで増加している。

3. 各都道府県の総括判断

(注) 基調比較は、前回 7 月経済情勢報告における平成 30 年 7 月豪雨前の状況での判断と、豪雨後から足下(10 月末)の状況までを含めた期間での判断との比較を行っている。

	前回(平成 30 年 7 月判断)	今回(平成 30 年 10 月判断)	前回比較	総括判断の要点
鳥取県	緩やかに持ち直しているとみられるが、平成 30 年 7 月豪雨による地域への影響について十分に把握する必要がある	一部に平成 30 年 7 月豪雨の影響を受けたものの、全体としては緩やかに持ち直している	➡	個人消費は一部に弱さがみられるものの、持ち直しつつある。生産活動は回復に向けた動きに一服感がみられる。雇用情勢は着実に改善しており、人手不足感が継続している。
島根県	平成 30 年 7 月豪雨前は、持ち直していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	一部に平成 30 年 7 月豪雨の影響がみられたものの、全体としては持ち直している	➡	豪雨の影響はあったものの、全体としては、個人消費は緩やかに持ち直しており、生産活動も豪雨前と基調に変化はなく、雇用情勢は改善している。
岡山県	平成 30 年 7 月豪雨前は、緩やかに回復していたが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	平成 30 年 7 月豪雨の影響を受けたものの、全体では緩やかに回復している	➡	個人消費は、総じて回復しつつある。生産活動は、豪雨の影響を受けたものの、回復しつつある。雇用情勢は、労働力需給が引き締まっている。
広島県	平成 30 年 7 月豪雨前は、回復しつつあったが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	平成 30 年 7 月豪雨の影響により回復のテンポが緩やかになっている	➡	個人消費は回復しつつある。生産活動は豪雨の影響が薄まりつつあるものの、豪雨前の水準まで戻っていないなど、回復のテンポが緩やかになっている。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が一段と広がっている。
山口県	平成 30 年 7 月豪雨前は、回復しつつあったが、現時点では、まずは豪雨による地域への影響全体について十分に把握する必要がある	一部に平成 30 年 7 月豪雨の影響がみられたものの、全体では回復しつつある	➡	個人消費は緩やかに持ち直しているほか、生産活動は一部に豪雨の影響がみられたものの、回復しつつある。雇用情勢は着実に改善し、人手不足感が引き続き強い状況にある。

管内経済情勢報告

(平成30年10月)

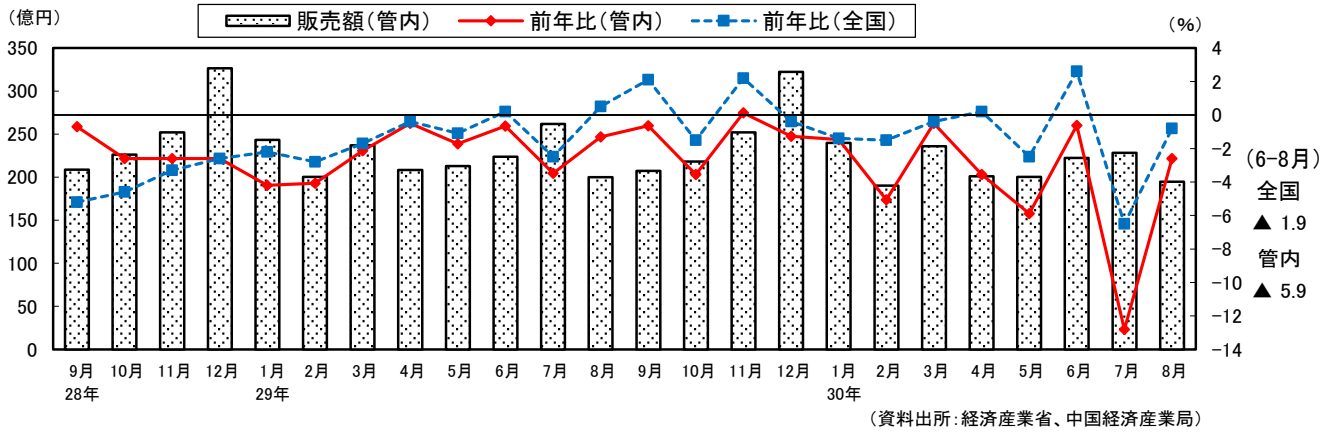
資料編

	目次	ページ
1.	個人消費	1
2.	生産活動	3
3.	雇用情勢	4
4.	設備投資	5
5.	企業収益	6
6.	企業の景況感	6
7.	住宅建設	6
8.	輸出	7

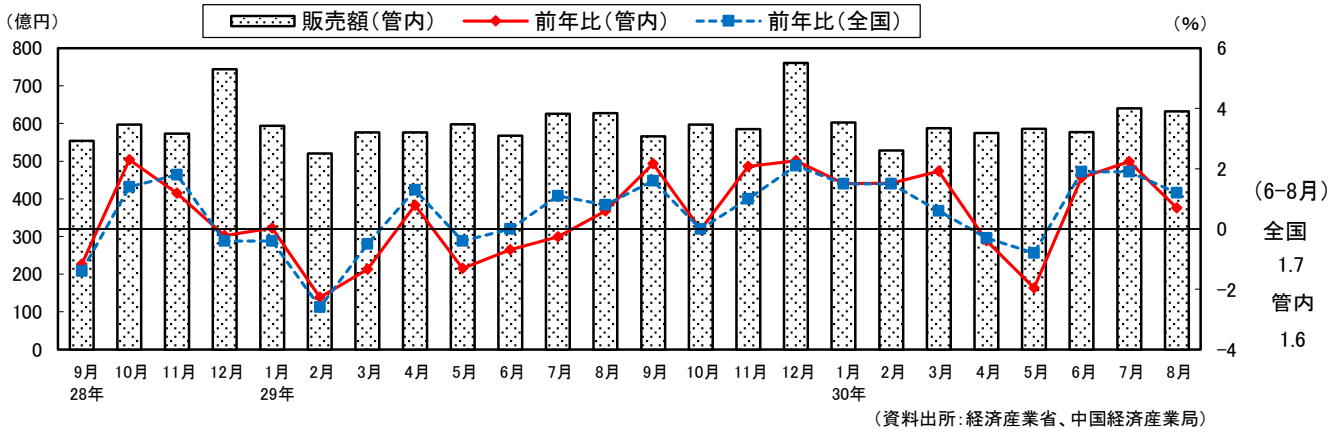
*上記の項目ごとに掲載しているグラフの枠外（右側）に記載している計数は、当該項目の状況を分析する上で参考とした前年比。（但し、生産活動は鉱工業生産指数及び前期比、雇用情勢は有効求人倍率を記入。）

1. 個人消費 回復しつつある

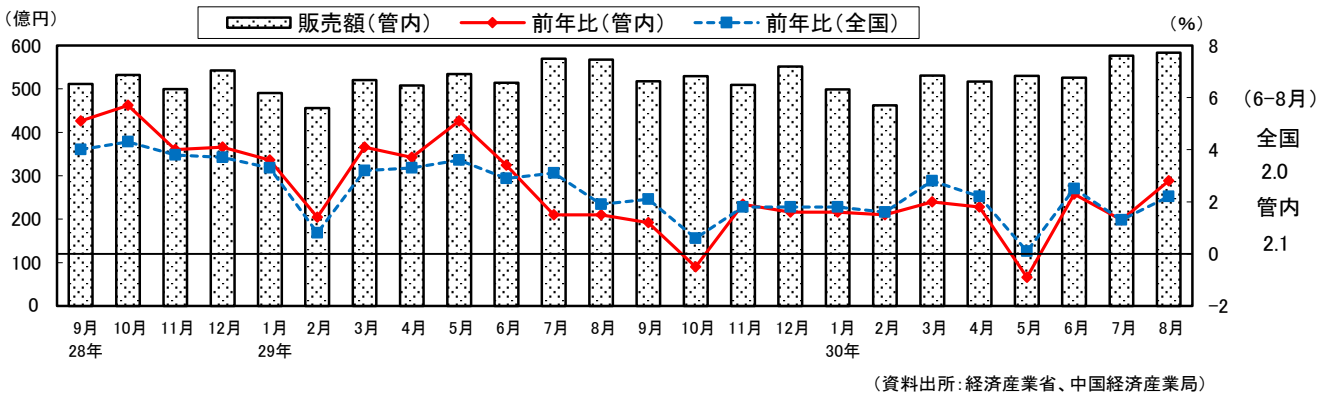
(1) 百貨店販売額(全店舗)



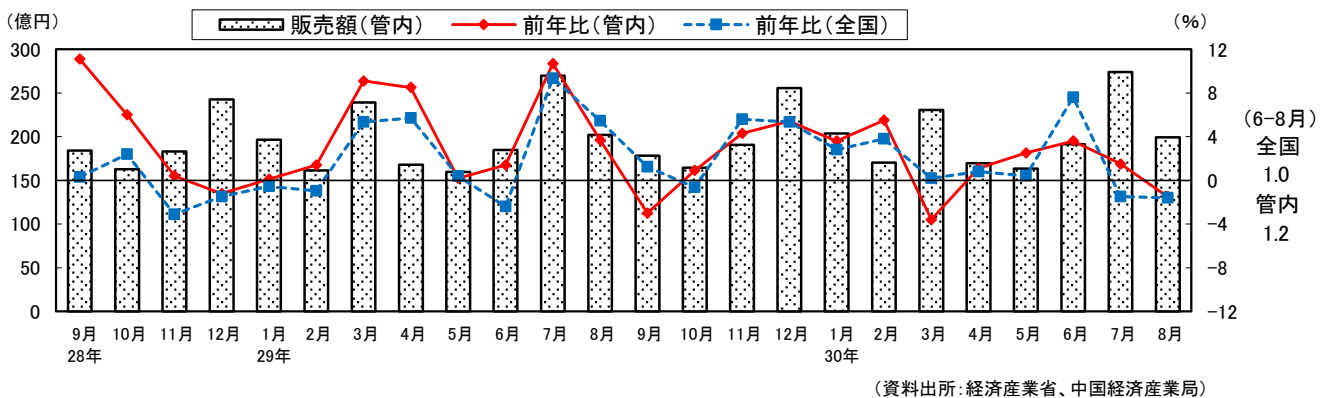
(2) スーパー販売額(全店舗)



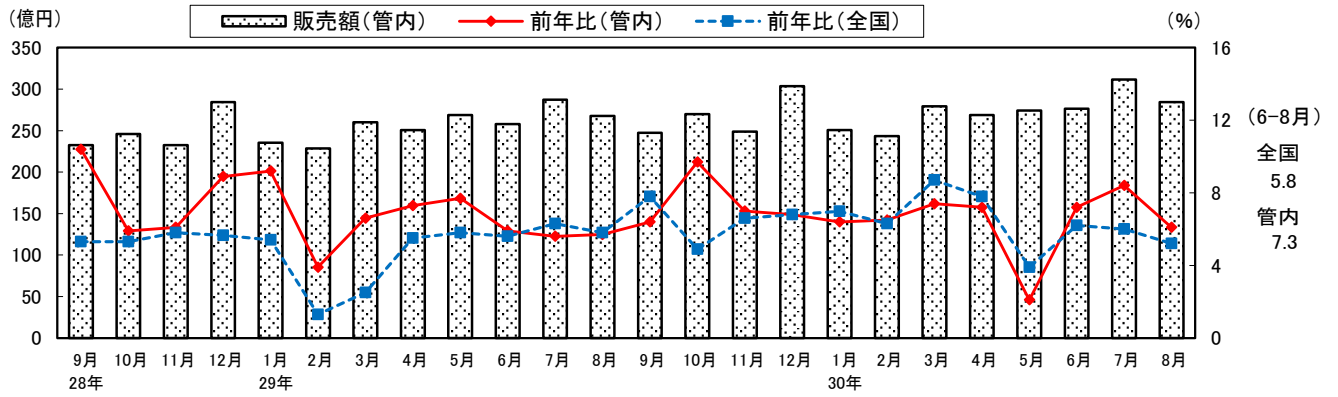
(3) コンビニエンスストア販売額(全店舗)



(4) 家電大型専門店販売額(全店舗)

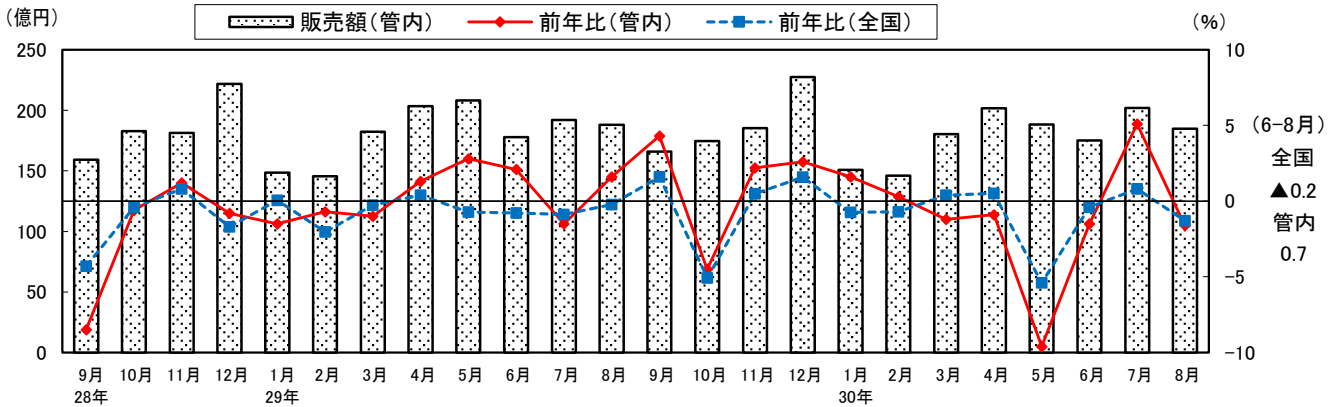


(5) ドラッグストア販売額(全店舗)



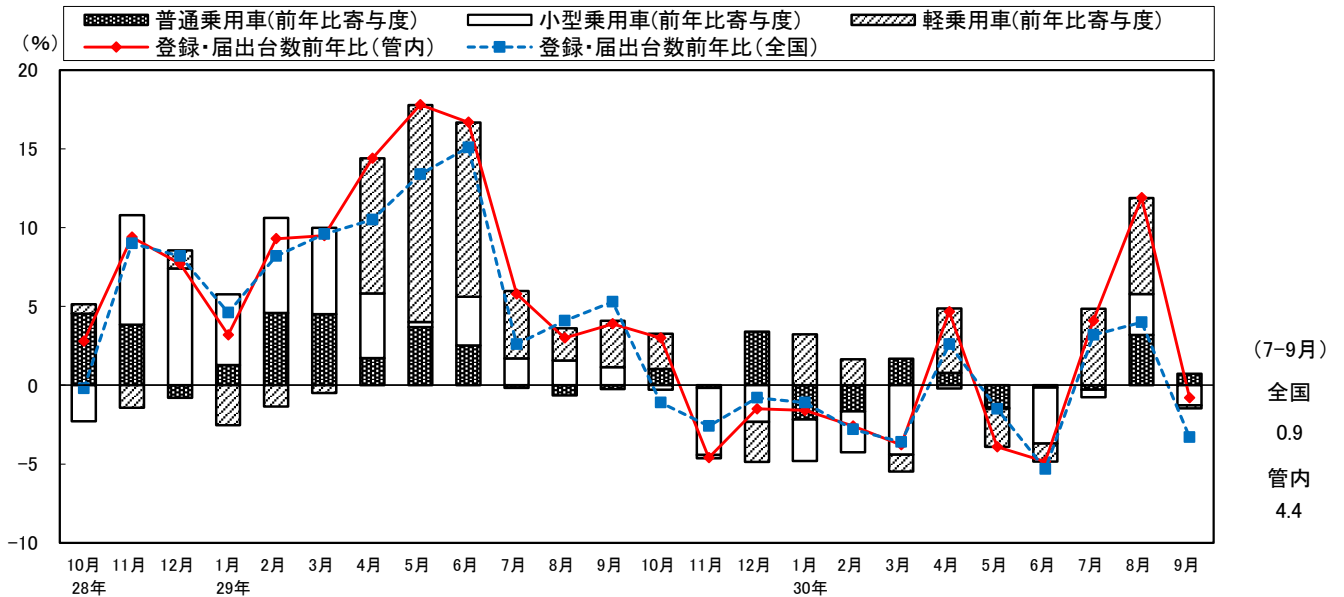
(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

(6) ホームセンター販売額(全店舗)



(資料出所: 経済産業省、中国経済産業局)

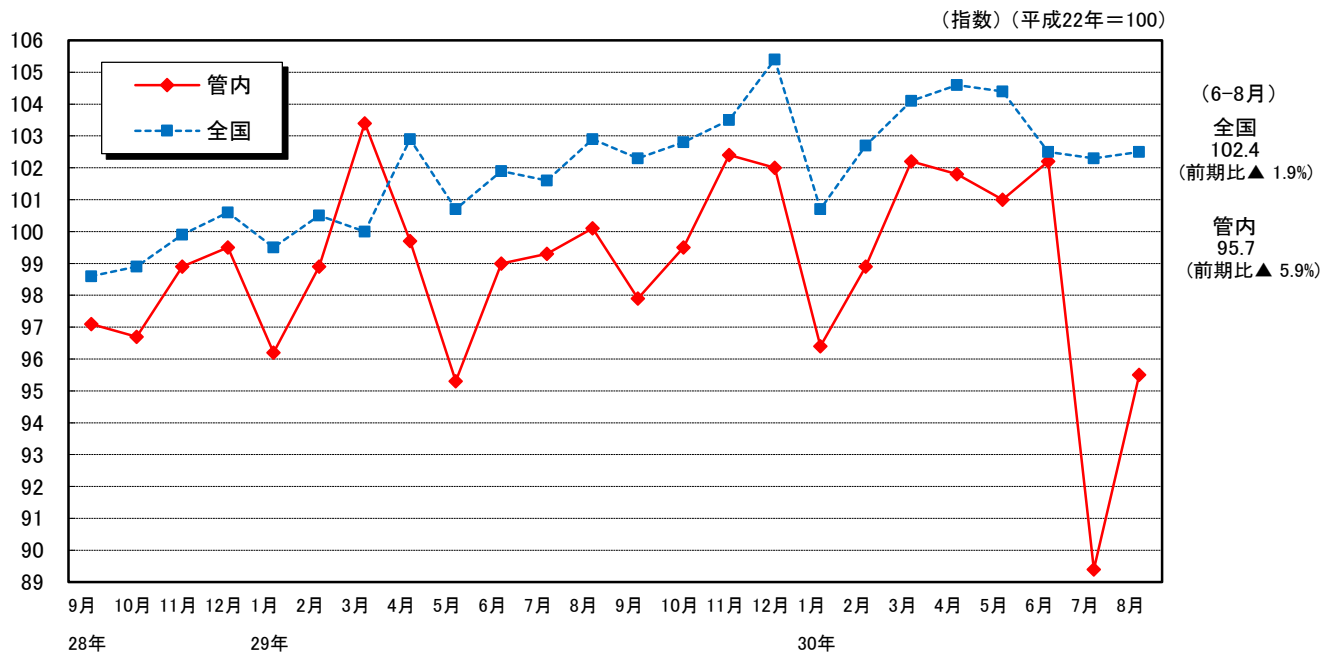
(7) 乗用車販売(新車登録・届出台数)



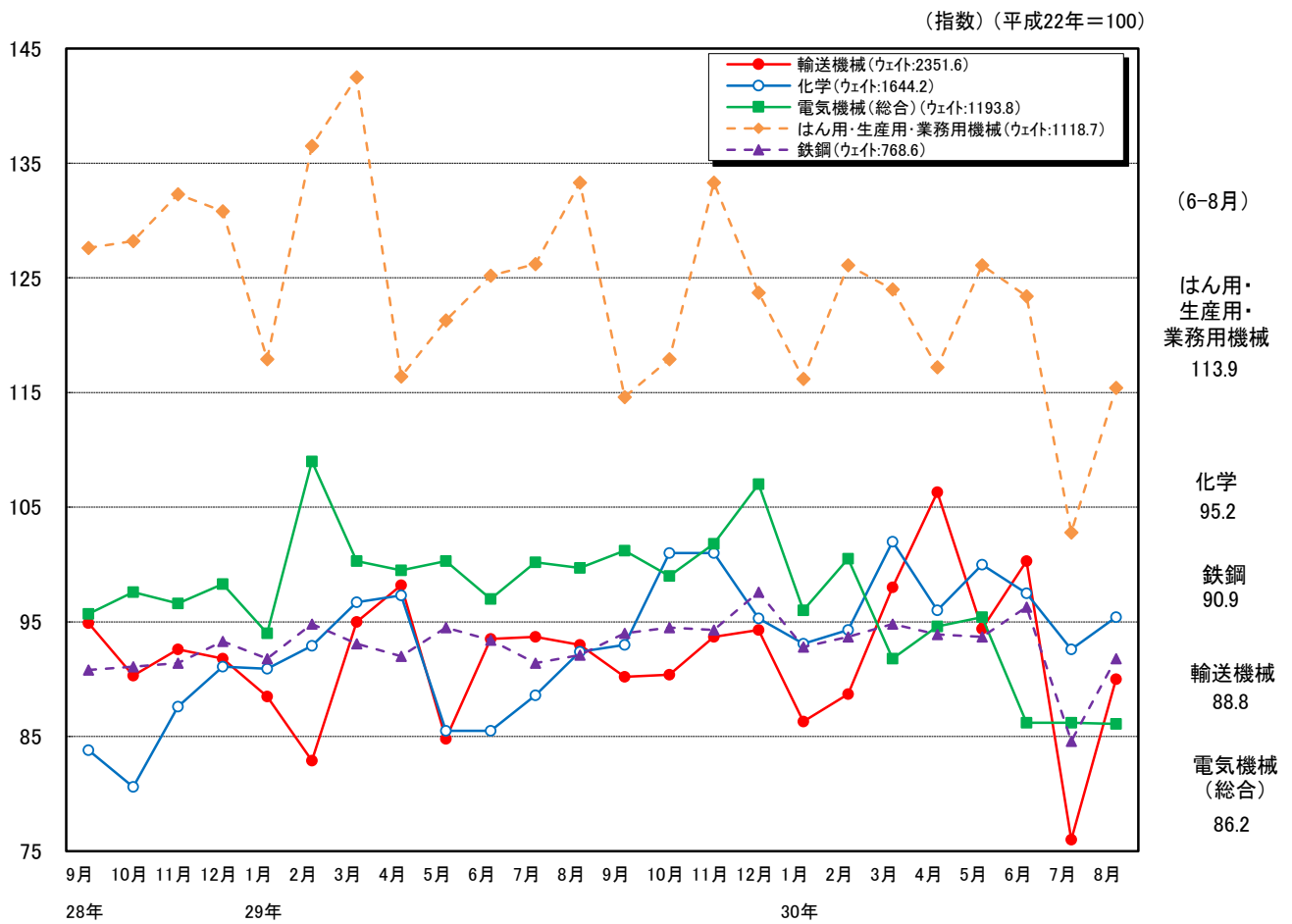
(資料出所: 中国運輸局)

2. 生産活動 豪雨の影響が薄まりつつあるものの、豪雨前の水準まで戻っていないなど、回復のテンポが緩やかになっている

(1) 鉱工業生産指数(季節調整値)

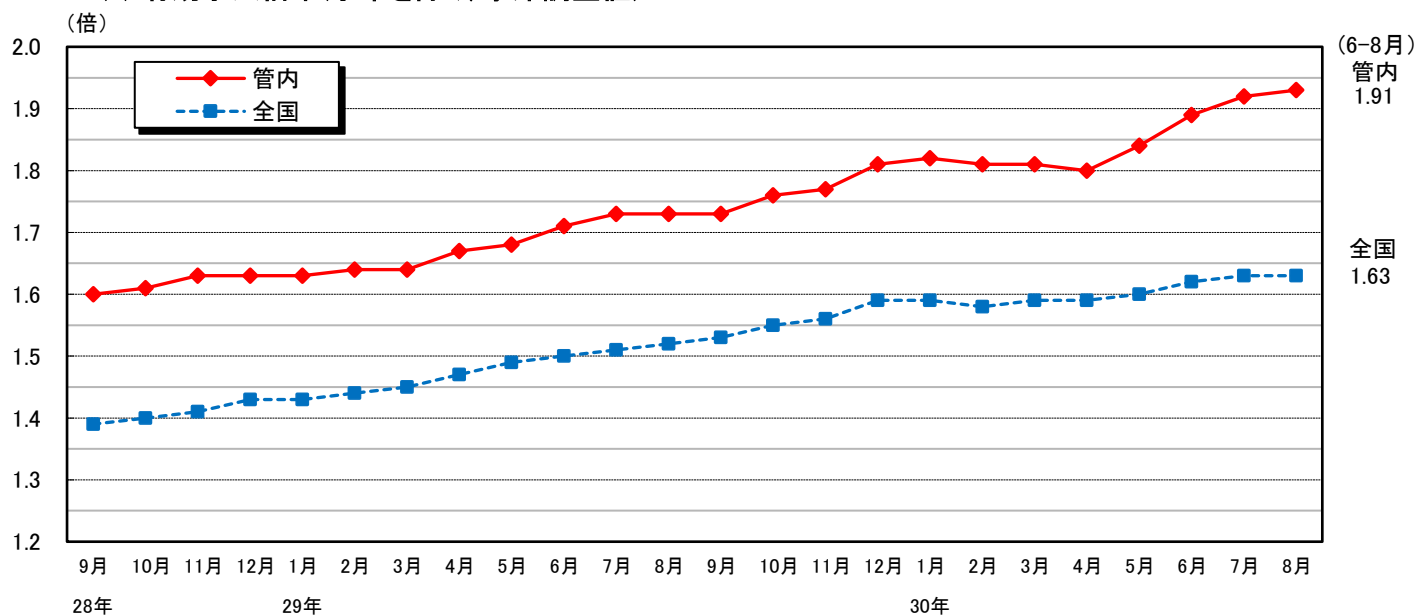


(2) 管内主要業種別生産指数(季節調整値)

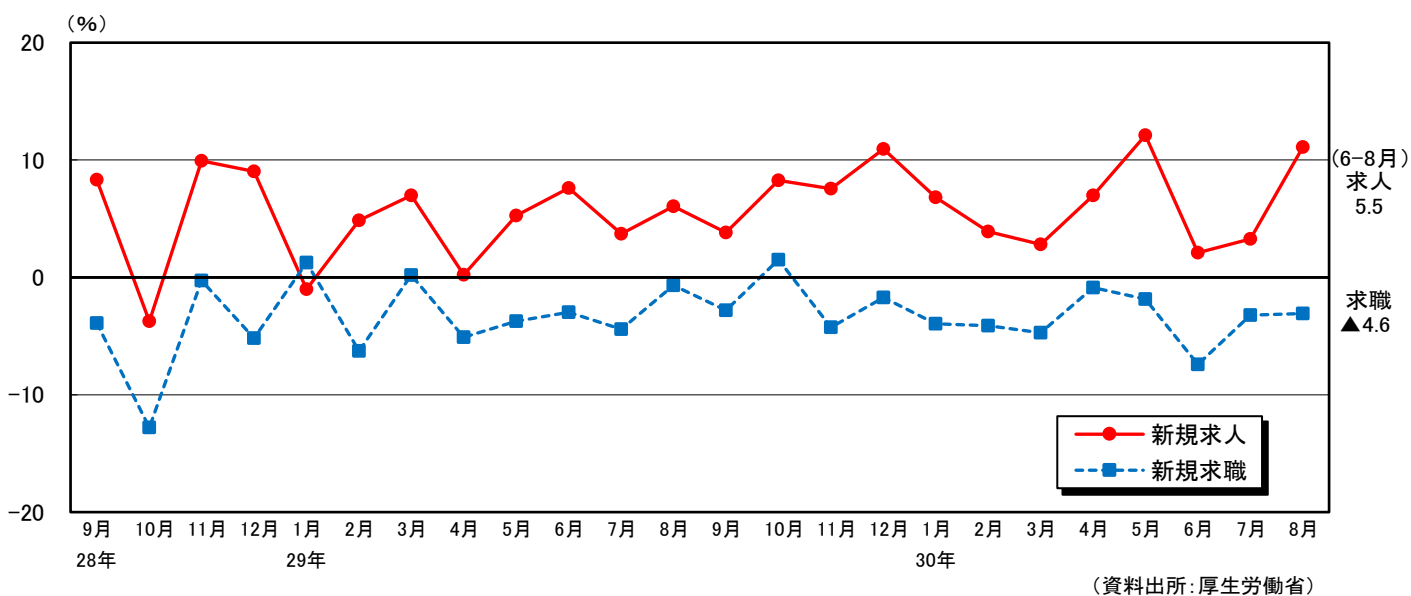


3. 雇用情勢 着実に改善しており、人手不足感が一段と広がっている

(1) 有効求人倍率(学卒を除く、季節調整値)



(2) 新規求人数・求職者数(学卒を除く、原数値)の前年比



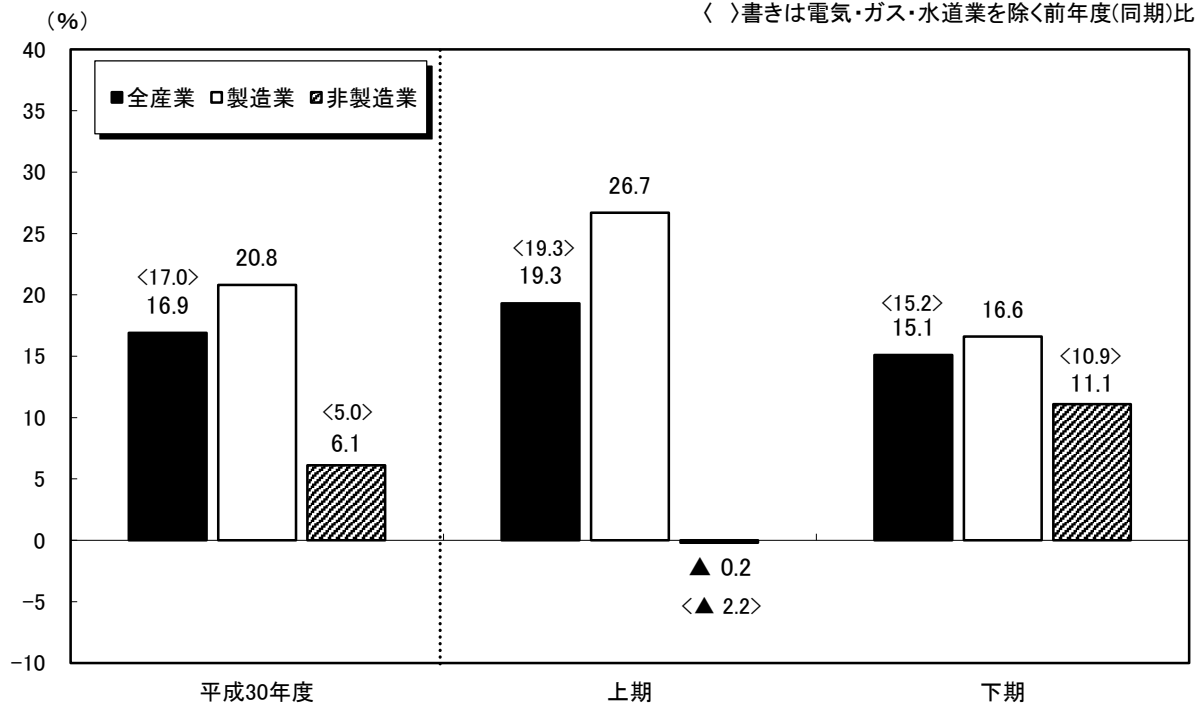
【参考】完全失業率(原数値)

区分	28年平均	29年平均	28.7~9	28.10~12	29.1~3	29.4~6	29.7~9	29.10~12	30.1~3	30.4~6
管内	2.8	2.5	3.2	2.3	2.5	2.7	2.6	2.3	2.1	2.3
全国	3.1	2.8	3.1	2.9	2.9	3.0	2.8	2.6	2.5	2.5

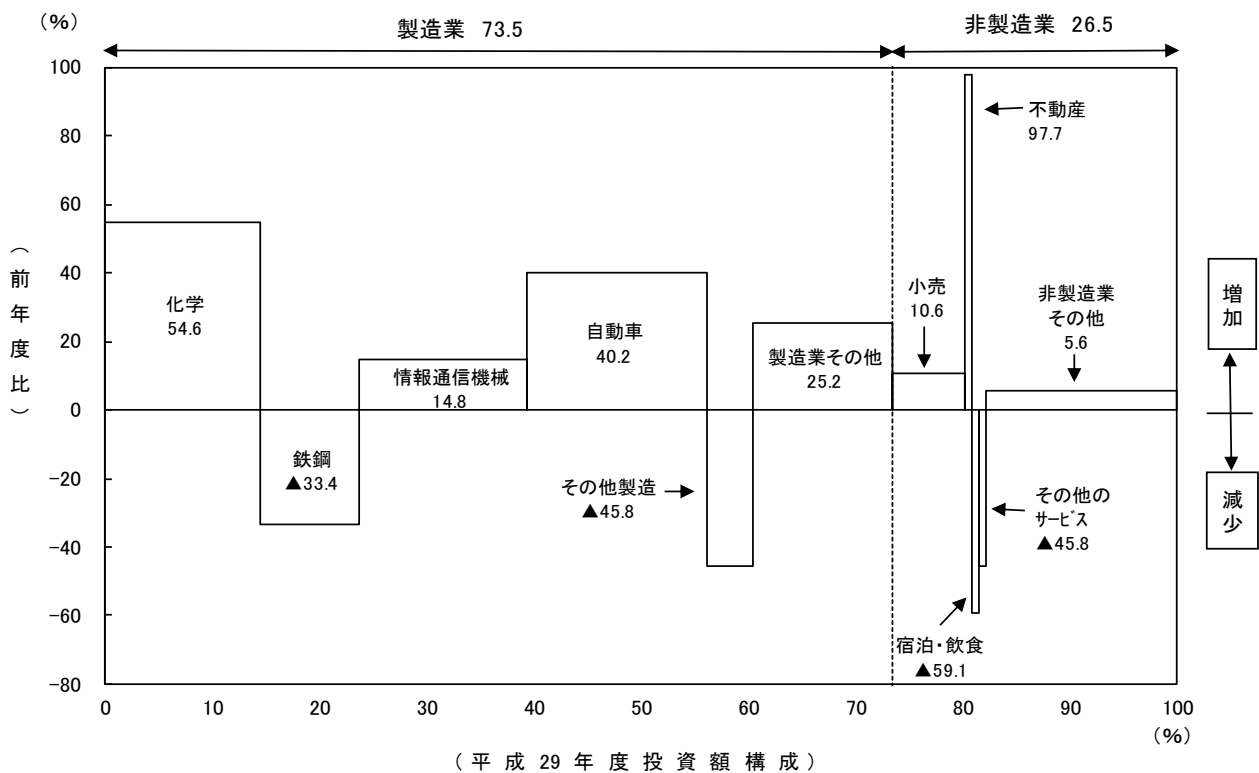
(資料出所:総務省)

4. 設備投資 平成30年度は前年度を上回る見通し

(1) 設備投資額(前年度(同期)比)

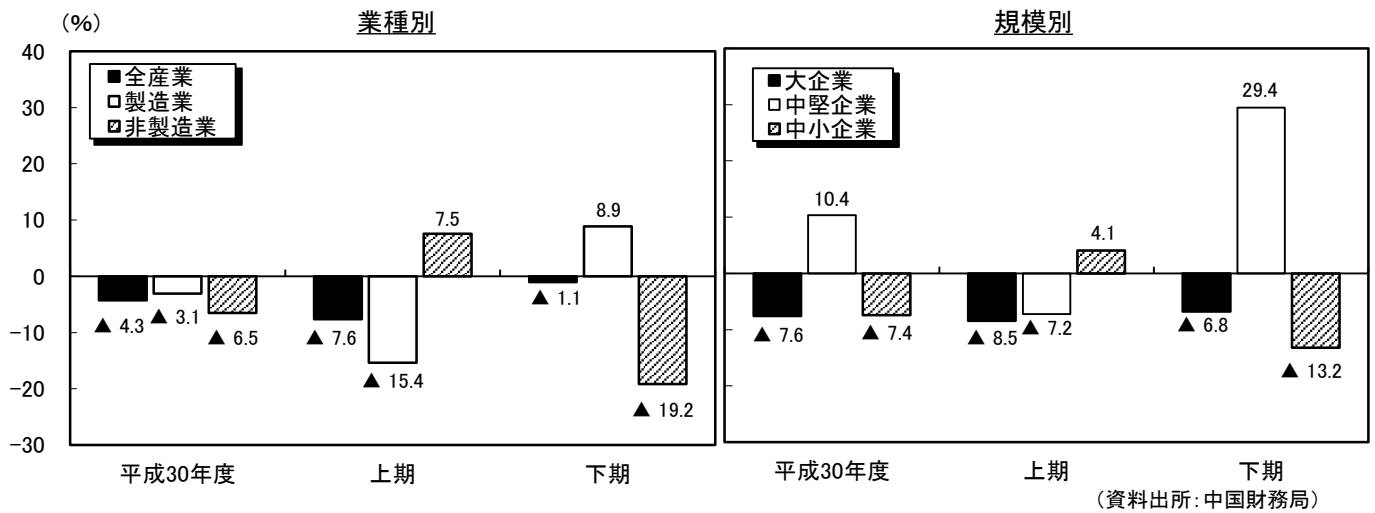


(2) 主要業種別(平成30年度)



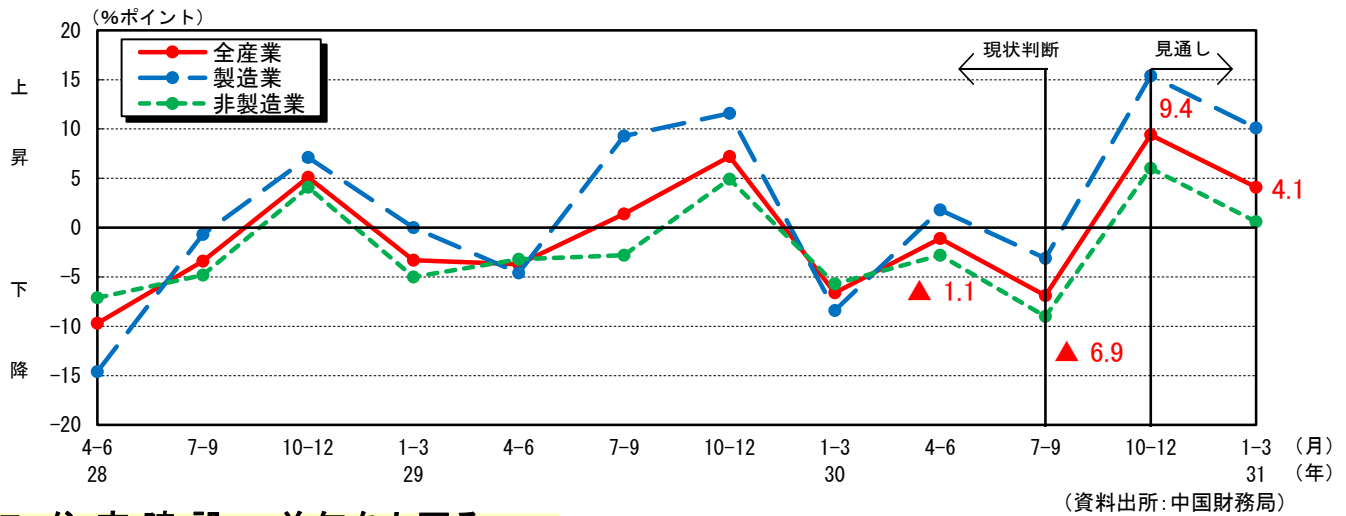
5. 企業収益 平成30年度は減益見通し

経常利益(電気・ガス・水道業、金融業、保険業を除く：前年度(同期)比)



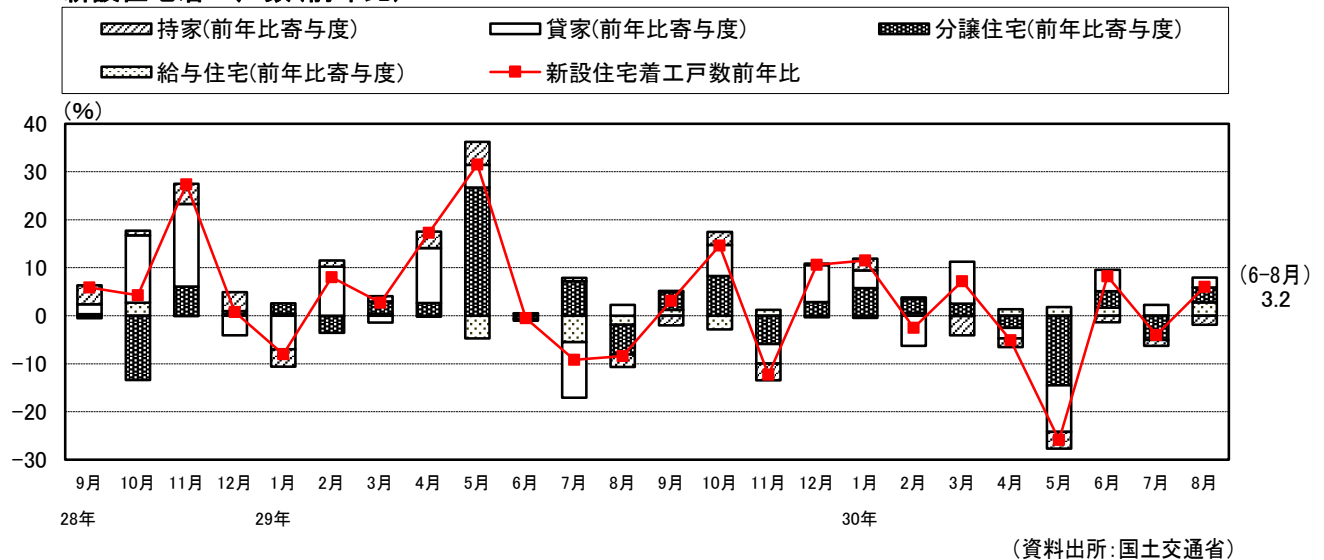
6. 企業の景況感 「下降」超幅は拡大

景況判断BSIの推移(原数値)(BSI:前期比判断「上昇」-「下降」社数構成比)



7. 住宅建設 前年を上回る

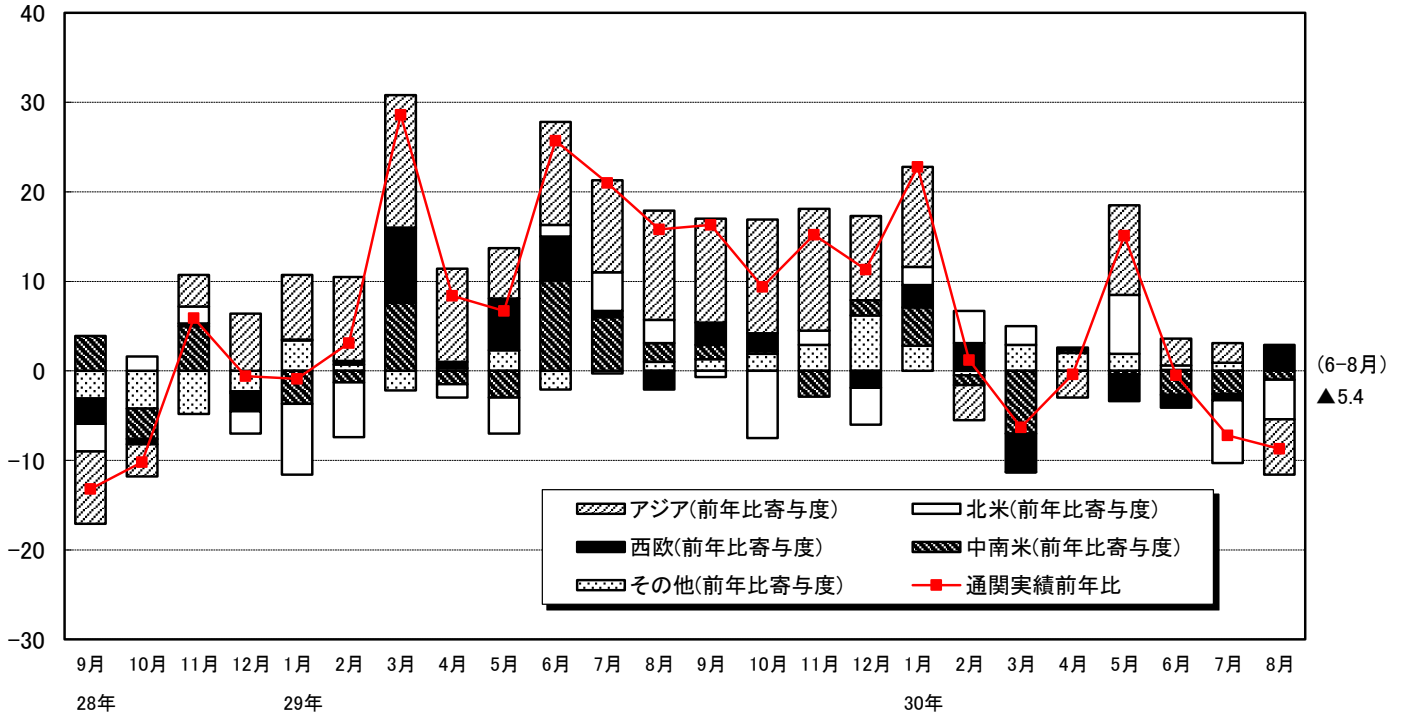
新設住宅着工戸数(前年比)



8. 輸出 前年を下回る

輸出(円ベース)

(%)



<参考>

輸入(円ベース)

(%)

